

平和への誓い

広島は、21世紀最初の平和記念日を迎えました。

昭和20年（1945年）の今日、一発の原子爆弾による爆風と灼熱の炎は、子どもの笑顔や家族の団欒をも一瞬のうちに奪い、我が子を抱きかかえ逃げまどう母親の叫びもむなしく、広島は、傷つき、倒れ、助けを求めながら亡くなっていった人々で満ちあふれ、地獄と化しました。

あれから半世紀、焼けこげた木々が小さいけれどたくましく新しい芽をふいたように、広島の人々は、廃墟から立ち上がり、悲しみや苦しみを乗り越え、今、私たちが暮らす美しい街に甦らせてきたことを学びました。

私たちは、広島を学び、新しい時代に生きる子どもとして、平和な世界を築いていくためには、何をしなければならないのでしょうか。

佐々木禎子さんが平和への願いをこめて一羽ずつ折り鶴を折ったように、身近な問題を一つ一つ解決する努力を積み重ねること。思いやりをもち、お互いの心を理解し合える強い糸で結ばれた小さな平和をたくさん創り出すこと。世界の友達と心と心のつながりを深め、平和への希望と勇気を生み出していくこと。こうした目標に向かって、粘り強くチャレンジし続けることが、広島に生きる子どもとしての責任です。

世界には、まだ核兵器は存在し、地域紛争や環境破壊もなくなっていません。21世紀の地球の進路を決めるのは私たちです。

生命を育む美しい星。この地球を守るためにも、原爆の恐ろしさや20世紀を生き抜いた広島の人々のたくましさをもっと深く学び、語り継ぎ、伝え続けていきます。そして、平和を願う心の輪を世界に広げ、21世紀を「平和の世紀」にするよう努力していくことを誓います。

平成13年（2001年）8月6日

子ども代表

広島市立矢野西小学校 6年

広島市立段原小学校 6年

富山 康成

藤森 優香